
閑話休題

神薙和刃

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

閑話休題

【Nコード】

N6065F

【作者名】

神薙和刃

【あらすじ】

徒然なるままに、日々思ったことを書き連ねるブログもどきのエッセイ

ヒーローは皆呪われている

えー皆様

こんにちは またはこんばんは。
和刃で御座います。

今回なかなか作品へのモチベーションが上がらないので、この『閑話休題』にて戯れ言をほざきつつ、作品へのモチベーションを上げていこうと考えたわけで御座います。

はい、現実逃避です。
すいません。

と言うわけで、今回のお話は

『ヒーローは皆呪われている』

というお話。

ご存知の方が居ると思いますが、私は『現実と理想の仮面ライダー』という作品を執筆しております。

最初で最後の良作です。

テーマは『正義』

戦いの虚しさを憂う仮面ライダーと戦闘員が不器用なりに自らの正義を見出すお話です。

んが

実はまだ隠されたテーマがあるのは皆様ご存知ないかと思います。
まあ分からないように書いたし、ほんのさわりしか書いてませんからね！

フヒヒヒヒwwwwww

(´A´) >キメエ…

隠されたテーマはズバリ

『ヒーローは皆呪われている』

です。

考えてみてください。

元々ヒーローってのは、最初は自ら望んで力を手に入れた訳ではありません。

仮面ライダーは拉致されて改造された存在。

ウルトラマンは死んで宇宙人と融合した存在。

ヒーローという存在は往々にして、非日常の偶発的な因子により、超人となってしまうた存在です。

それが力を公使する度に、人の目に触れ、人が彼らを求め、その求めに応じて彼らは戦うのです。

戦わなければ大切な人が死ぬ。

そうで無くても、異質な力を手に入れ、異質と化した彼らが、人々にとってプラスになる存在（まさに正義の味方、もしくは人々を脅かす異質を排除する存在）だと認識させなければ、彼ら自身が『人々を脅かす異質』として排斥されるからです。

つまりはヒーローは自ら望んでなれる存在ではなく、人々に望まれ、『仕立て上げられる』存在なのです。

我々の異質に対する恐怖が弱さが

誰かが何とかしてくれるという無関心が何とかしてくれる誰かが存在してほしいという身勝手さが

ヒーローを、血みどろの闘争へ向かわせてしまった。

彼らをヒーローへとさせてしまった。

我々の無意識が『呪い』と化し、悪を殺めさせ、その業を背負わせる羽目にしてしまったのです。

なのである意味ではヒーローが一番の被害者で、我々こそヒーローに惨殺されなければいけない『悪』であることは間違いないでしょう。

だけどヒーローはそんな事はいわない。

何故なら自分も人間であるから。

人が独りでは生きていけない事を知っているから、自らと守る人々の繋がりを必死に保っている。

『呪い』に蝕まれ、人として生きることすら危ぶまれても、人として人々と生きるために『ヒーロー』で在り続ける。

かくもヒーローとは儚く愚かで悲しい存在なのです。

今のヒーロー物にはそんな悲哀がない故に、私は今のヒーロー物を余り好かないのかもしれませんが。

nitro+さんの代表作である『ヴェドゴニア』や、アニメ『ブラスレイター』。

仮面ライダーの原型である『スカルマン』などには、そのような『人で有りながら人に在らざる力を持つが故の苦悩』があるため、私を惹き付けているのでしょう。

私はそんなヒーローの悲哀を醸し出し、大海のような絶望の果てに、

雨の一滴のような小さい希望を手にして死に絶えるような、救い様の無い、哀れで美しい物語を描いて生きたいと思っております。

もしくはその小さい小さい希望が、弱々しくも脈々と後世に残るような物語を――

感想、苦情はドシドシ承ります。
それでは皆様、ご機嫌よう。

死刑は我々の為の制度である

良く人権派って名前の『誉められたいが為に薄いガキの理屈を振りかざす』方々が死刑反対とか騒いでいますが、私には良く理解が出来ません。

なぜなら死刑と云うのは、我々が平和に日常を過ごす為にある制度だからです。

死刑とは確かに重く残酷な制度であります。

いくら犯罪を犯した人間とはいえ、合法的に殺人を犯す制度なのですから。

確かに容疑者の人権を約束された昨今、死刑の存在意義を問われていますが、私は『ある出来事』から死刑は必要不可欠だと考えたのです。

女子高生コンクリート事件。

とある女子高生が攫われ、陵辱された上殺害、さらには遺体をコンクリート漬けにされて遺棄された事件ですね。

その主犯であつた少年が釈放後、また女性に暴行を働いて逮捕された事件はあまりにも衝撃的でした。

彼は『俺は殺人をしたことがある』と被害者を脅して暴行を行ったとありますから、本当に呆れ果てる他無い。

こう云う人間が現実要る。

そんな因子を孕む重犯罪者を世に解き放つ訳にはいかない。

ならばどうするか？

死刑です。

生かしておく限り危険性を保持するモノは早めに除去するに限りません。

細胞の壊死を防ぐために、あまりにも酷い凍傷の部位を切除するよ
うに。

死刑とは被害者の悲しみを鑑みたものでもなく
犯罪者に対する正義の鉄槌なんてものでもありません。

我々が平和な日常を過ごすために、それを壊す危険性のある『バグ』
を削除するための、効率のいいシステムなのです。

もし死刑反対を唱える人がいるなら問いたい

もしアナタの大切な人が惨殺されたなら、その惨殺した人間をどう
したいか？

もし惨殺した人間が、罪の意識に苛まれることなくのうのうと生き
ていたら？

もし惨殺した人間が、アナタの唱える『死刑反対』により、普通に
刑期を終えて釈放された途端罪を犯したら？

有り得ない。なんて云わせませんし、有り得ない訳がありません。

マンガだけの世界じゃない。

救いようのない悪人と言うのは掃いて捨てるほどこの世界に存在しています。

死刑と言うのは残虐な制度ではなく、我々の平和な日常を乱す要因から、我々を守る『防衛策』の一つであると云うことを認識して下さい。

感想 苦情ドシドシ受け付けます。
それでは皆様さようなら。

語られない物語

皆様は宮澤賢治氏をご存知でしょうか？

氏は『銀河鉄道の夜』『よだかの星』など様々な名作を生み出した方であり、私の心の師匠でもあります。

宮澤賢治氏の作品は、人間社会への批判や心情の具現化、出自に対する罪悪感による悲哀など様々な物を持っています。

余談ですが私は『よだかの星』を特に好いています。

醜い鳥『よだか』への謂われのない迫害、それに対する星座達の冷遇。そして自らの不遇を嘆きながら、自らを蔑むよだかの儚さは、今でも涙を誘う程です。

まあ今回は『よだかの星』ではなく『銀河鉄道の夜』が主題なんですけどね。

なら書くな、と？

サーセンwww

『銀河鉄道の夜』については長く書きすぎてしまいそうなので説明は割愛致します。

簡単に説明すれば主人公ジョバンニと友人カムパネルラ（本によってはカンパネルラ）が、不思議な銀河系を体験するというお話です。

宮澤賢治という人間がどういう人間だったのかを論じる際、『よだかの星』と共に題材として挙げられるほどの作品。

ただ、この物語は宮澤賢治氏の作品でありながら宮澤賢治氏の作品ではありません。

なぜなら氏は『銀河鉄道の夜』を執筆中、不幸にも夭折してしまったからです。

かくして未稿でありながら遺稿と成った『銀河鉄道の夜』は、様々な人間の手で推敲、改竄され世に出されて『しまった』のです。

物書きとは、自らの物語に『伝えたいこと』を載せるものだと思います。

理解されるにせよされないにせよ、『伝えたいこと』を、言葉に載せて放つ。

これが物語になる。と私は思っております。

故に作者亡き『銀河鉄道の夜』は、宮澤賢治氏の作品でありながら、真に宮澤賢治氏の作品にはなれないものだと思っております。

さながら劇中にて、永久に一緒に居ようと云った矢先、消え失せたカムパネルラへ、喉が裂けるほど泣き叫んだジヨバンニのごとく――

『銀河鉄道の夜』は『伝えたいこと』を喪われさせられてしまった。

ただ遺稿に記された文字の羅列を繋ぎ逢わせただけでは『銀河鉄道の夜』ではなく『物語』と化してしまう。
作者が意図し、望んだ形で文字が紡がれて初めて『銀河鉄道の夜』と化す。

故に子供のころ、『銀河鉄道の夜』に描かれた世界を見て心弾ませたのを思い出し、あの壮大なスケールを以て氏は何を伝えたかったのかを思わずにはいられません。

崇高なものなのか
他愛のない、矮小なことなのか

何千万と刷られ、世に出回る『銀河鉄道の夜』
世の中全てが『銀河鉄道の夜』を理解しながら、『作者の意図』を理解することは出来ず、またそれは永遠に理解されない。
そして銀河鉄道は延々と走り続ける。

それを想うと、氏の存在はなんだったのかと思い、虚しさや悲しさがこみ上げ、不覚にも涙してしまいました。

果たして氏は、あの無限に広がる星空の彼方へ何を馳せ、その馳せ

た想いから創り出された世界から何を伝えたかったのか。

それを知ることが永遠にできない。

感想、苦情喜んで受け付けます。
それでは皆様ごきげんよう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6065f/>

閑話休題

2010年12月12日02時07分発行